保存版

魚津市 内水ハザードマップ

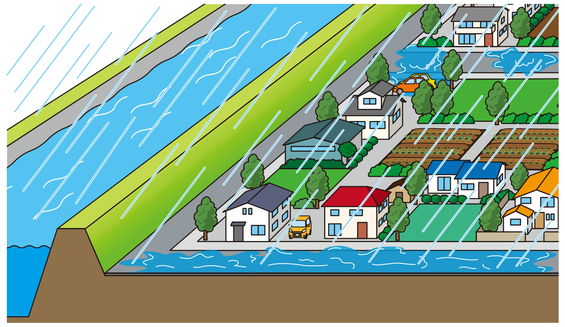
下中島・上野方・上中島地区

この内水ハザードマップを作成した条件

この内水ハザードマップは、魚津市において想定される時間最大雨量130mmの内水氾濫を想定しています。

内水氾濫とは

内水氾濫とは、雨の量が雨水路などの排水施設の能力を超えるときや、河川などの排水先の水位が高くなったときに雨水を排水できなくなり、側溝などから水があふれて浸水することです。



内水ハザードマップの特徴

内水ハザードマップとは、内水氾濫時に浸水が想定される区域を示したものです。
- ●低地だけでなく高台であっても周囲よりやや低い場所であれば浸水している可能性がある
- ●洪水では浸水しないところが、内水氾濫で浸水するおそれがある
- ●洪水よりも発生する可能性が高い

→ 雨が降り出したらまずは内水ハザードマップを確認！

魚津市上下水道課　〒937-8555 富山県魚津市釈迦堂1丁目28番28号　電話 0765-23-1039

令和7年3月作成

知る 水害について

内水氾濫から外水氾濫へ被害が拡大

非常に激しい雨が降ると…

雨水が下水道などで排水できなくなり、道路の冠水や宅地の浸水が発生しはじめます。

さらに雨が続くと、河川の水位が上昇し、堤防が決壊するおそれがあります。

堤防が決壊すると多大な被害が発生します。

外水氾濫(洪水)とは

外水氾濫（洪水）とは、大雨により河川などの水位が高くなることで、堤防を超えて水があふれたり堤防が決壊し浸水することです。

洪水ハザードマップの特徴

洪水ハザードマップとは、河川からの浸水が想定される区域を示したものです。
- ●内水氾濫の浸水深より、深く浸水する
- ●堤防が削られたり流速によって、家屋等が倒壊するおそれがある区域がある
- ●広範囲に浸水が想定されている

→ 更に雨が強く降り続くおそれがあるときは洪水ハザードマップを確認！

線状降水帯による顕著な大雨が発生し、数多くの甚大な災害が生じています。線状降水帯による大雨が発生している場合は、危機感を高めましょう。

知る 水害にとるべき行動

警戒レベルととるべき行動

災害発生の危険度を直感的に理解し、的確に避難行動ができるようにするため、5 段階の警戒レベルを用いて避難に関する情報や防災気象情報等の防災情報が発表されます。警戒レベルに応じて適切な行動をとるよう家族で話し合い、我が家のマイ・タイムラインを作成し、家族で共有しておきましょう。

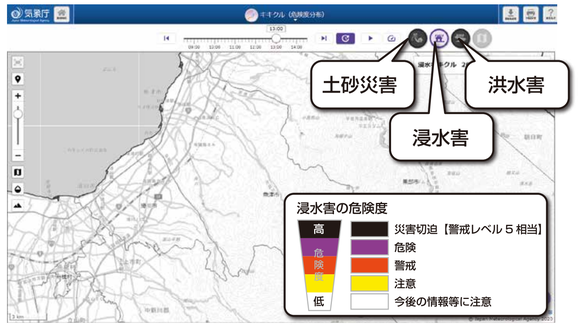
警戒レベル	避難指示等の発令	避難行動等	我が家のマイ・タイムライン
5	緊急安全確保〔市町村が発令〕	万一逃げ遅れたら！ すでに安全な避難ができず命が危険な状況です。万一逃げ遅れたら、丈夫な建物の高い階で救助を待ちましょう。無理をするとかえって危険です。	命の危険 直ちに安全確保！ すでに災害が発生･切迫している状況! 自宅内や近くの建物などで、少しでも被害を受けるおそれの少ない場所に移動!
〈警戒レベル４までに必ず避難！〉			
4	避難指示 ※地域の状況に応じて緊急的または重ねて避難を促す場合等に発令 〔市町村が発令〕	速やかに避難して下さい! 非常に危険です。一刻も早く危険な避難から全員避難して下さい。車での避難は避けましょう。	避難指示 発令で避難場所に避難開始 □ 携帯電話などで最新の状況を確認
3	高齢者等避難〔市町村が発令〕	高齢者等は避難して下さい! お年寄りや体の不自由な方は避難が必要です。皆で避難に協力しましょう。	高齢者等避難 発令で避難場所に避難開始 □ 独自のタイミングで避難（　　） □ テレビやインターネット、携帯電話で避難所の開設状況や雨量・水位などを確認 □ 家の戸締りをする　□ 非常持出品を玄関に置く
2	洪水注意報、大雨注意報等〔気象庁が発表〕	テレビやラジオの情報に注意しましょう。避難に備え、ハザードマップ等により、自らの避難行動を確認しましょう。	□ 気象情報をチェック　□ 避難する場所、避難経路を再確認 □ 携帯電話・モバイルバッテリーを充電 □ 避難しやすい服装に着替える
1	早期注意報〔気象庁が発表〕	災害への心構えを高めましょう。	□ 最新の天気予報をチェック □ 家族の今後の予定や居場所を確認 □ 家の周りの風雨で飛ばされそうなものを固定 □ 非常持出品(備蓄品など)を確認 □ 親戚や知人宅に避難させてもらうことを連絡 □ 必要な物の買い出し

※市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル５は必ず発令される情報ではありません。
※各種情報は、警戒レベル１～５の順番で発令されると決限りません。状況が急変することもあります。
※警戒レベル３は、高齢者等以外の人も必要に応じ普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。

知る 水害に役立つ情報

キキクル(危険度分布)

「キキクル(危険度分布)」とは気象庁が発表する防災気象情報で、大雨による土砂災害･浸水害･洪水災害の危険度の高まりを5 段階に色分けして地図上で確認できるシステムです。



雨の強さと降り方

1時間雨量(mm)	10以上～20未満	20以上～30未満	30以上～50未満	50以上～80未満	80以上
雨の強さ（予報用語）	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
人への影響	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	傘をさしてもぬれる		傘は全く役に立たなくなる	
雨の降り方	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る	滝のように降る	息苦しくなるような圧迫感がある
屋内(木造)	雨の音で話し声が良く聞き取れない	寝ている人の半数くらいが雨に気がつく			
屋外の様子	地面一面に水たまりができる		道路が川のようになる	水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	
車に乗っていて		ワイパーを速くしても見づらい	高速走行時、ブレーキが効かなくなる	車の運転は危険	

わが家の防災メモ

災害は時間を問わず起こります。日中･夜間の家族の居場所を想定して、各自の避難先を考えておきましょう。また、安全な避難ルートも複数考えておきましょう。

名　前	学校・勤務先	電話番号	避難先	メモ

情報の入手先

魚津市緊急情報配信サービス（防災情報メール）
- ・気象注意報、警報、特別警報
- ・土砂災害警戒情報
- ・記録的短時間大雨情報 等

QR を読み取り、登録用メールアドレスに「空メール」を送信します。
登録用メールアドレス t-uozu@sg-p.jp

Yahoo! 防災速報アプリ（スマートフォンアプリ）
気象警報や避難情報など、災害に関して緊急を要する情報をスマートフォンにプッシュ通知します。
利用するためには、スマートフォンにアプリをダウンロードする必要があります。
ひとりひとりに合った情報を お届け Yahoo!防災速報

緊急速報メール（エリアメール）
市のエリア内の携帯電話やスマートフォンに一斉に配信するサービスです。
配信エリア内の全ての対応携帯電話へ一斉同報配信します。
対応機種及び受信設定方法などの詳細は、NTT ドコモ、KDDI、SoftBank の各社ホームページをご確認ください。

魚津市公式SNS（LINE等）
魚津市公式 LINE では、災害に関する情報以外に、魚津市に関する様々な情報をお知らせます。
QRコードをスキャンするとLINEの友だちに追加されます。
QRコードをスキャンするには、LINE アプリのコードリーダーをご利用ください。

防災行政無線（同報系）
屋外に設置されている子局のスピーカーや防災ラジオから、市民の皆さまに緊急情報や避難情報などをお知らせします。
防災行政無線の内容は、0765-23-1118にて、再度聞くことができます。

テレビデータ放送
テレビのデータ放送を通じて情報をお届けします。
ご利用の際はリモコンの「d」ボタンを押してください。

車両による広報巡回
水害等により避難指示が発令された場合は、災害の危険度が高い地域を中心に、魚津市消防団等が車両巡回を行い、広報活動を行います。

災害用伝言ダイヤル171

詳しくは https://www.ntt-west.co.jp/dengon/web171/

災害用伝言ダイヤル171

①伝言を登録する場合（音声案内があります）
【171】をダイヤル → 音声ガイドに従い【1】をプッシュ → ××××－××-××××（被災者の番号）

②伝言を聞く場合（音声案内があります）
【171】をダイヤル → 音声ガイドに従い【2】をプッシュ → ××××－××-××××（被災者の番号）

災害用伝言板

詳しくは https://www.web171.jp/web171app/topRedirect.do

災害用伝言板（web171）

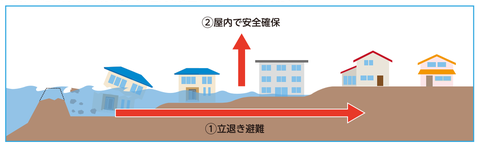
大規模な災害時には、携帯電話の通話が一気に集中してつながりにくくなります。
それでも早く無事を知らせたい、安否を確認したいというときに役立つのが、「災害用伝言板」サービスです。（スマートフォンでのご利用については、各社のページでご確認下さい。）

考える 避難について

避難の考え方

大雨が降り続いた場合、内水氾濫から洪水へ被害が拡大するおそれがあります。リスクを知るには被害の拡大も考慮し、自分の居場所の危険度を知り、避難を考えることが必要です。避難の方法はあなたの居場所によって異なります。

①家屋倒壊等氾濫想定区域の場合は、立退き避難が必要です。
②浸水想定区域内の場合は、立退き避難が必要です。ただし、想定される浸水の深さより高い場所で、水が引くまで我慢でき、水、食料などの備えが十分であれば屋内で安全確保することも可能です。



避難先の選定…立退き避難には、以下の避難先が考えられます。
- ●行政が指定した避難場所。
- ●安全な親戚・知人宅 / 安全なホテル・旅館等の自主的な避難先。

避難の心得

住所、氏名、連絡先などを記載した防災メモを持ちましょう。
特に高齢者や子どもは、事前に身につけて避難しましょう。

避難の際、外出中の家族がいる場合「どこどこへ避難する」といったようなメモを残しておきましょう。

単独での避難行動は危険が伴うため2人以上で避難しましょう。

浸水時には、ふたのはずれたマンホールや側溝等危険な場所があります。移動する場合には、長い棒を杖代わりにする等、足元の安全を確保しましょう。

市内には鉄道の下等に立体交差部（アンダーパス）があり、大雨時には冠水するおそれがあるため、通行は避けましょう。

土砂災害警戒区域等では、大雨等による土砂災害への警戒が必要です。集中豪雨等により、外が危険な状況である場合は、自宅上階や陸の反対側の部屋等、より安全な場所に避難しましょう。

備える 非常持出品、備蓄品

非常持出品

もしもの時に備えて、日頃から非常持出品の準備を心がけましょう。
避難時に持ち出したい物を欲ばりすぎると、安全な避難に支障をきたすことになります。必要最小限の内容にしましょう。

貴重品	現金、権利証書、預貯金通帳、免許証、健康保険証、など
非常食	乾パン、缶詰、ミネラルウォーター、など
救急医薬品	目薬、傷薬、胃腸薬、お年寄りの常備薬、など

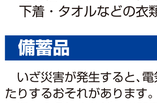
その他ヘルメット、救命胴衣、携帯ラジオ、懐中電灯や下着・タオルなどの衣類を備えておきましょう。

備蓄品

いざ災害が発生すると、電気、ガス、水道などのライフラインが使えなくなったり物流が機能しなくなったりするおそれがあります。
過去の例によれば、災害発生からライフラインの復旧まで 1 週間以上かかるケースがほとんどです。また、災害支援物資が届かないことや、スーパーやコンビニで食品が手に入らないことが想定されます。このため、最低でも３日分、できれば１週間分くらいの食料を家庭で備蓄しておくことが重要です。

大人2人、1週間分の家庭備蓄の例

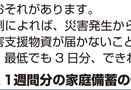
必需品 発災後は、ライフラインが停止する可能性があります。水とカセットコンロなどの熱源は必需品です。



[例]大人2人分の場合
水　2L×6本×4箱(1人1日3L程度)
カセットコンロ、ボンベ×12本(1人1日1本弱程度)

主菜[例]大人2人分の場合
肉･野菜･豆などの缶詰×18缶
牛丼の素やカレーの素などのレトルト食品×18個
パスタソースなどのレトルト食品×6個

主食 [例]大人2人分の場合
米2kg×2袋
カップ麺類×6個
パックご飯×6個
乾麺(そうめん300g×2袋、パスタ600g×2袋)



副菜と果物 [例]大人2人分の場合
梅干し、漬物、日持ちする野菜類
野菜の缶詰、野菜ジュース
りんごやみかん、柿など日持ちのする果物
果物の缶詰、果物のジュース
ドライフルーツ

その他
あめ、羊羹、チョコレート、ビスケット、せんべい、スナック類の菓子･嗜好品
みそ、しょうゆ、塩、砂糖、酢、食用油、マヨネーズ、ケチャップなどの調味料
インスタント味噌汁や即席スープ

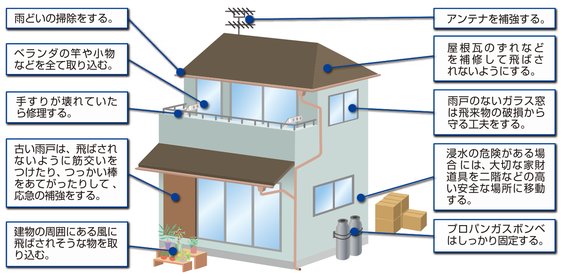
出典:政府広報オンライン

日常で食べているものを消費しながらストックする「ローリングストック」

蓄える→食べる→補充することを繰り返しながら常に一定量の食品を備蓄する方法をローリングストックといいます。
ふだん食べているカップめんや缶詰、インスタント味噌汁など少し多めに買い置きし、賞味期限の古いものから消費し、食べたらその分を買い足すだけです。

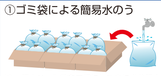
備える 日頃からの備え

台風や集中豪雨で発生する災害は、ある程度予測できます。情報を入手し、しっかりした準備をしておきましょう。



家庭でできる簡易水防方法
ご家庭にあるものを使って水の侵入を防ぐ方法の例です。あくまでも水深の浅い初期で行うものです。

①ゴミ袋による簡易水のう

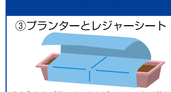


40L 程度のごみ袋を二重にして中に半分程度の水を入れます。段ボール箱に入れると強度が増します。

②ポリタンクとレジャーシート

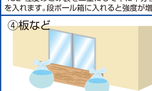
ポリタンクに水を入れ、レジャーシートで巻き込み連結して使用します。

③プランターとレジャーシート



土を入れたプランターをレジャーシートで巻き込み使用します。

④板など



出入り口で長めの板などを使用します。

⑤吸水性ゲルポンのう（使い捨てオムツなど）

軽量・コンパクトですが、水を吸うと膨張します。

防災訓練

市では、防災活動の実施や、防災意識の普及啓発を図るため、毎年9月に総合的な防災訓練を行っています。いざというときに的確な対応をとれるよう防災訓練に参加しましょう。

市で作成しているその他のハザードマップ

洪水ハザードマップ　土砂災害ハザードマップ　ため池ハザードマップ　津波ハザードマップ　揺れやすさマップ

下のQRコードを読み取ると、それぞれのマップをダウンロードできます。